

課題②

講義を受ける前の私は、材料工学の分野に興味を持ちながらも、具体的なキャリアイメージが未熟でした。大学 1 年生として、専門的な知識や経験が不足しているため、将来のキャリアについての展望は漠然としていましたが、材料工学の分野での企業での実務に携わり、産業界での貢献を目指す意欲はありました。講義を受ける前は、材料工学の分野について幅広い分野があり、どのようなキャリアを選択すべきか迷っていました。しかし、講義を通じて材料工学が持つ多様性や重要性に気づき、産業界でのキャリアを築く魅力を強く感じるようになりました。専門的な知識や技術について講義を聞くことで、自分の興味が特定の領域や産業に絞られることを理解しました。材料の特性や応用、製造プロセスの最適化など、様々なトピックに触れることで、自分の興味関心が具体化していくのを感じました。講義を通じて得た知識は、自己のキャリアに対する方向性を明確にし、将来の目標を定める上での重要な指針となりました。産業界での現実的な課題に触れる機会も得られ、これは自分のキャリア選択に対してより具体的な方向性を示す手助けとなりました。将来のキャリアを築く上で重要なステップとして、大学院で修士課程を卒業し、企業に就職して材料工学の分野で活躍することを考えています。5 年後を考えると、大学院での学びを通じて、自分の専門的な知識をさらに深化させ、実務的なスキルを磨いていると思います。材料の開発や製造プロセスの最適化、製品改良に関わるプロジェクトに携わりながら、企業の成長に貢献したいです。また、業界内でのネットワークを構築し、専門知識や経験を共有することで、自己のキャリア発展に繋げていくつもりです。他のメンバーや後輩の成長をサポートするリーダーシップを発揮することで、自己の成長にも繋げたいと考えています。10 年後を思い描くと、材料工学の分野で企業の中核的なポジションに就いている姿を想像しています。講義を受ける前の興味と講義を通じて得た知識を融合させ、企業の戦略的な意思決定に関与したいと考えています。先端技術の開発や新しい材料の導入に対するリサーチと開発に取り組んでいるかもしれません。自己のキャリアの中で、より高度なプロジェクトに携わり、産業界のイノベーションに貢献することを目指しています。さらに、材料工学の分野における知識と経験を教育や研修などを通じて後輩や若手研究者に伝えることにも力を入れます。自己の経験を次世代に引き継ぎ、材料工学の分野の発展に寄与することが自分の目標です。講義を受ける前後での自己のキャリア形成に対する意識の変化は、材料工学の分野での専門知識と実務経験の重要性を理解し、自己のキャリアに対する目標を明確化することにつながりました。大学 1 年生の立場から始まるこのプロセスは、着実な成長を伴い、5 年後、10 年後の自己をより具体的に想像することができそうです。大学院で修士課程を修了した後、企業での実務経験を通じて、材料工学の分野での成果を上げ、産業界での貢献を果たすことを願っています。この成長過程は自己のキャリアにおける確固たる土台となると思います。

### 講義③

現在、私は大学 1 年生で、基礎工学の分野に興味を持ち、将来的には基礎工学の専門家として大学院で研究を行うことを考えています。私の抱負は、世界を取り巻く環境問題やエネルギー問題を解決することにあります。これからの 3 年半で、自らの力を磨き、社会に貢献するための土台を築くことを目指しています。まず、大学生活を有意義に過ごすために、基礎工学の専門分野において幅広い知識を身につけることを目標とします。授業や講義だけでなく、自主的に関連書籍や研究論文を読み込み、基礎的な理論や技術を理解することで、研究における基盤を固めます。また、実験やプロジェクト活動に積極的に参加し、実践的なスキルを身につける努力を惜しまないことが重要です。次に、環境問題やエネルギー問題に対する理解を深めるために、関連する講演会やセミナーに参加することを目標とします。専門家の話を聞くことで、現状の課題や将来の展望を把握し、研究において取り組むべき重要なテーマを把握します。また、研究室に所属し、実際に研究に従事することで、自分の興味をより具体的に絞り込み、将来の研究テーマを見つけ出します。また、大学院入試に向けた論文執筆やプレゼンテーションの機会を逃さずに活用し、自らの研究に対する姿勢をアピールします。研究者としてのスキルを高めるだけでなく、国際的な視野を持つことも私の抱負の一つです。世界中で共通の課題である環境問題やエネルギー問題は、国境を越えて連携し解決していく必要があります。そのためには、異なる文化や背景を持つ研究者と交流することが大切です。英語のスキルを向上させ、海外の研究機関や大学での交流プログラムに参加することで、国際的なネットワークを広げていきます。また、社会に対して自らの研究成果を広く伝えることも重要な使命だと考えています。研究の成果を学会や国際会議で発表するだけでなく、一般の人々にも分かりやすく伝えるための科学普及活動にも取り組みたいです。持続可能な社会づくりの重要性を広く認識させ、共感を呼び起こすことで、より多くの人々が環境に配慮した行動を取るきっかけとなるよう努めます。そして、私の抱負の最終目標は、研究者としてのキャリアを築きながらも、実際の社会課題に対して具体的な解決策を提供することです。研究成果を産業界や公共セクターと連携し、実用的な技術やシステムに応用することで、社会に直接的な影響を与えたいと考えています。研究の成果を企業の製品開発に活かしたり、地域のエネルギー政策に提言したりすることで、社会の持続可能な発展に貢献することが私の使命となります。この 3 年半の期間を通じて、基礎工学の専門家としての自己をより深く理解し、環境問題やエネルギー問題への取り組み方を具体化していきたいと思います。大学院での研究を通じて、自己の専門性を高めるとともに、社会の課題に対する貢献を追求していきます。多くの人々と協力し、共に持続可能な未来を築くために全力を尽くしていきたいと思います。